

地元区議の情報紙 27年9月下旬号 No.96号

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話090(1201)1297

提案・意見は—携帯電話のショートメールを下さい—



汐入公園内に保育園設置 全国初国家戦略特区制度を改正

荒川区はこの度「国家戦略特区」を改正し、都市公園内に保育園を設置すると発表しました。現在の法律は、都市公園内においては動物園や美術館など文化や教育施設の設置を認めています（上野動物園や博物館など）、福祉施設等は認められていません。荒川区は法律を改正し、全国初となる福祉施設の保育園を設置することに成功しました。



大都市圏の自治体に朗報

現在、多くの自治体は待機児解消のための保育園の設置に努めていますが、土地の確保が難しく大きな課題になっています。荒川区では待機児はわずかなので大きな問題とはなっていませんが、今後は尾久地区の保育園を設置するときには、宮前公園の中に保育園を設置出来るようになりました。東京でも世田谷区や江戸川区などでは百人規模での待機児が生じており、保育園の増設は喫緊の課題になっています。今後、この制度を活用できれば他の自治体では救世主となります。

汐入公園内の保育園は地元活用できる施設に

汐入公園内の保育園の事業者募集は9月に公募を行います。私は荒川区に対し委員会等での質問で次のように提案をしています。計画地はテニスコートに隣接していて現在、ゲートボールで遊んでいる高齢者の皆さんのために①今後も継続できるように建物の屋上には人工芝を敷くこと②屋上に上がるには緩やかな階段の設置など工夫すること③建物のホールなどでは、公園に来ている人たちのために授乳やおむつ替えなどができるように開放することです。新たな動きが出た時には報告いたします。

崎山都議に要望・実現 汐入公園多目的広場 全面改修 来春オープン 4500万円超の工事費

昨年の秋ごろから崎山都議に要望していた、汐入多目的広場の全面改修工事がこの度実現の運びとなりました。このグラウンドは開設を優先したのか、当初から外野部分に草が生えていたり、凹凸の多い使い勝手の悪い砂質で春先には砂埃が舞い、目の前の住宅のベランダの窓ガラスが開けられない住民



からも苦情の多いグラウンドです。完成すると素晴らしいグラウンドに生まれ変わります。

工事は12月から3月まで使用禁止

汐入地区都バス上屋3か所工事中

本紙7月号で掲載しました、汐入地区内の都バス停留所の上屋とベンチの取り付け設置。崎山都議に要望していた3か所の工事が現在進められています。はなみづき北3番館付近の工事は間もなく終了、現在、荒川三中向かいのはなみづき通り南6番館の工事が進んでいます。残りの汐入中央通りけやき南4番館の工事も始まります。



荒川区民祭り・商業祭来春は汐入会場が有力

毎年4月29日に開催され、7万人くらいの来場者を楽しませる—荒川区民祭り—会場は毎年、都立汐入公園・南千住野球場・都立尾久の原公園・荒川遊園の順序で開催していますが、ここにきて少し異変が起きています。出店団体の中でも有力な姉妹交流各地の産地直送販売が人気を博し、会場が狭くなってきました。特に荒川遊園地会場に課題が・・・都立尾久の原公園も現在、土壌汚染が検出され土壌改良工事を行っているので来春の開催地としては微妙な状況。そこで白羽の矢が立ったのが都立汐入公園。会場の広さは満点ですが交通アクセスに少し課題有り。しかし隅田川とスカイツリーを見ながらの演出を工夫すれば多くの参加者が集まることは確実です。

下町の空想画家小松崎茂展開催

荒川区南千住で生まれた下町の空想画家・小松崎茂（1915年から2001年まで）は、今年2月、生誕100年を迎えました。本展は、生涯子どもたちに夢を与え続けた小松崎茂の生誕100年を祝して開催します。幼いころから絵を描くことが好きだった小松崎は、挿絵画家として昭和13年（1938）にデビュー、戦時中、雑誌『機械化』などに未来の兵器や戦闘機などを描き注目されます。戦後は、絵物語作家として一世を風靡し、少年雑誌の口絵、プラモデルの箱絵、メダルの原画なども手がけ、その幅広い画業と、特に近未来を具体的に見せるその絵は、当時の少年たちにとっての夢であり、未来への憧れでした。また、戦災で故郷を離れた小松崎は、生まれ故郷への想いを終生抱き続け、汐入の原っぱ、ガスタンク、生まれ育った長屋などを描きました。これらは今や、当時の風景や生活を知る上でも貴重な資料となっています。本展示では、小松崎の画業の足跡をたどるとともに、小松崎の芸術世界の根源と言っても過言ではない、故郷あらかわが持つ魅力を、原画や雑誌等の作品を通して紹介します。



的中するか菊花賞 荒川区観光大使

西尾久育ち井崎脩五郎さん（競馬評論家）

荒川区の観光大使として、荒川区のイメージアップのために活躍している競馬評論家井崎脩五郎さん。生まれは長野県伊那市。お父さんの会社の社宅が西尾久にあった関係で小学校から育ちました。小学校は尾久第六小学校、成績はオール5との事。荒川七中を卒業し、大学は明治大学商学部。大学時代に在籍していた時には大学紛争の真っ只中にあり授業はなし、当時の大学生の多くがアルバイトに精を出していましたが井崎さんも御多分に漏れずアルバイト生活と麻雀生活に、そ



ここで生涯を左右する劇的な競馬との出会いとなります。井崎さんの言葉を借りると「シャツ屋さんで働きました。裁断屋さんに行って待っている時にそこのおやじさんに勧められて買ったのが5－6馬券。200円が5000円になり・・・」大学3年の時に初めて中山競馬場へ。「驚きました。大人たちはこんな面白いゲームに熱中している。只の大人が、的中したといっちは飛び跳ねる。それよりも、あの騎手の派手な衣装。職業はこの道と決めました。」卒業したのが昭和45年。縁あってホースニュース社に入社となり、競馬専門紙記者として働きます。フジテレビの競馬中継には1983年からレギュラー解説者として出演し、現在でも「みんなのKEIBA」にご意見8番の立場で出演しています。いよいよ菊花賞から有馬記念。井崎さんの予想を信じて馬券を買いませんか・・・